

老健

創刊号

ほっかいどう

2017年1月

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

発刊にあたってのご挨拶

星野豊 会長

祝辞

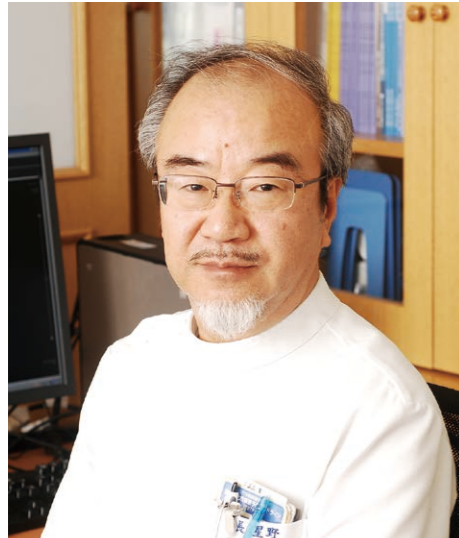
全老健 東憲太郎 会長



北海道庁旧本庁舎
(赤レンガ)前

理事挨拶
会員施設一覧

第24回北海道老人保健施設大会開催



「老健ほっかいどう」 創刊にあたって

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

会長 **星野 豊**

医療法人社団豊生会 理事長
介護老人保健施設 ひまわり

平素より会員施設の皆様におかれましては、当協議会の運営に特段のご配慮を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

このたび、北海道老人保健施設協議会では機関誌を創刊することとなりました。会を代表してご挨拶申し上げます。

北海道老人保健施設協議会は、1988年に苫小牧市で北海道内初となる老人保健施設が認可された後、1990年に「介護老人保健施設の質的向上と相互の研鑽を図ること、会員施設が相互に研鑽し、良質な医療・介護サービスの提供に寄与する」ことを活動目的として発足しました。初代会長は苫小牧健樹園の岩本光存欣先生(故人)が就任され、25施設が組織する協議会として一歩を踏み出しました。

以来、2000年の介護保険制度の創設をはじめ、2010年の任意団体から一般社団法人への改組等、幾度かの転機を経て今日に至っております。

その活動は、各種研修会や北海道老健大会の開催、全老健をはじめとした関連諸団体・行政機関との連携を通じて、会員施設の皆様が質の高いケアの提供と安定した運営の両立が図れるよう、一助となるべく精力的に活動しつつ歩みを進めてまいりました。

会員数も現在168施設となり、道内介護老人保健施設のおよそ9割が加入していますが、この強固な組織率は、当協議会の活動の原動力となる大きな源であり、また、地域や行政に我々の声を届けるための大切な力にもなります。

2025年には団塊の世代が後期高齢者となり、4人に1人が75歳以上という未曾有の超高齢社会を迎えるにあたり、医療・介護や年金等各種の社会保障制度は、今後より一層変化していきます。

広範な北海道においても地域包括ケアシステムの着実な構築と推進が急がれる中、我々介護老人保健施設がそれぞれの地域で、中核施設として期待される在宅復帰機能・在宅生活支援機能といった役割を更に強化し、確実な実践を果たしていくために、当協議会もこれまで以上に会員の皆様と密接な連携を図り、活動を強化していきたいと考えています。

機関誌の刊行を通じて、道内の介護老人保健施設が相互に連携・協力できるよう、情報共有のツールとして活用いただき、また、職員の皆様お一人おひとりが広く閲覧することで、当協議会の活動をより深く知っていただき、たくさんの方々が積極的にご参画くだされば幸いです。

今後も皆様へ積極的に様々な情報を提供させていただくとともに、より多くの方々からご意見を頂戴し、双方向のコミュニケーションを充実させることで、会員の皆様にとって北海道老人保健施設協議会がより身近な存在となるよう努力していきたいと思っております。

「老健ほっかいどう」が会員の皆様と当協議会をつなぎ、ひいては地域と皆様をつなぐ懸け橋となることを祈念して、創刊のご挨拶とさせていただきます。

発刊おめでとうございます

公益社団法人全国老人保健施設協会

会長 **東 憲太郎**



北海道老人保健施設協議会機関誌「老健ほっかいどう」が発刊されますこと、心よりお喜び申し上げます。機関誌を通じて、道内の保健・医療・福祉の関係者のみならず、道民の皆様への情報発信のために寄与されますことと思います。発刊に携わられた役員、委員、事務局の皆様には敬意を表します。

さて、国では2018年度の診療報酬・介護報酬の同時改定の議論が始まっております。2012年度介護報酬改定においては、老健施設が本来の役割を果たすための原点回帰への明確な方針が打ち出され、2014年度診療報酬改定や2015年度介護報酬改定で示された在宅復帰支援機能・在宅療養支援機能強化の流れは、2016年度診療報酬改定でも見受けられ、2018年度同時改定でさらに加速していくものと予想されます。

それらを踏まえ老健施設が、リハビリテーションをはじめとする在宅支援機能を果たすことにより、今後増加する在宅介護の

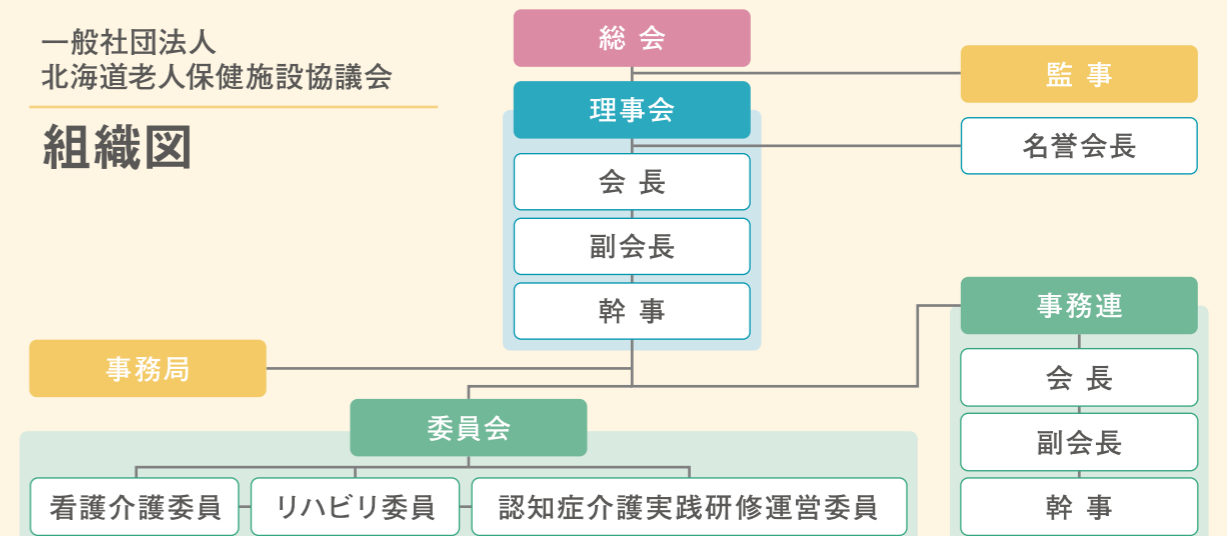
受け皿となり得ると確信しております。また、多死社会を迎えるにあたり、老健施設の看取り機能は在宅支援の延長にあるとも考えられます。これらが地域包括ケアシステムで求められる拠点機能ともいえます。

消費税率引き上げの延期、深刻な人材不足、サービス付き高齢者向け住宅の急増に伴う老健入所待機者の減少等々、老健施設を取り巻く社会環境は以前と比べて非常に厳しくなっています。しかしこのような時こそ、地域に求められる機能を原点に立ち帰って考え、国民に必要とされる老健施設として一層の信頼を得ることを切に願ってやみません。

機関誌「老健ほっかいどう」発刊を機に、道内の保健・医療・福祉の向上のため、会員一丸となって益々活躍、発展されることを心より祈念しております。

一般社団法人
北海道老人保健施設協議会

組織図





副会長 高橋 肇
社会医療法人高橋病院 理事長
介護老人保健施設 ゆとり

平素は北海道老人保健施設協議会へのご支援とご協力を賜りまして心から厚く御礼申し上げます。

2018年度の診療報酬・介護報酬同時改定では地域包括ケアシステム構想における医療・介護連携の強化はもとより、在宅復帰の強化、看取りケア、認知症対策の充実などがいっそう求められることが予想されます。

地域包括ケアシステムが円滑に推進するには、生活の質(QOL:Quality of Life)向上のみならず、地域の質(QOC:Quality of Community)を高めることが重要であり、介護老人保健施設がその中心となって役割を果たすべきと考えております。

道内では現在190ほどの介護老人保健施設が活躍されておりますが、当協議会はこれまで以上に地域を超えたスムーズな連携、情報交換およびスタッフ教育が道内各地で展開できるようにしたいと考えております。

今後どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2007年より、理事をさせていただいております。介護保険費用の増加に伴い、高齢者と現役世代の双方に経済力に応じた負担を求めた介護保険制度の見直しが、まとめられました。また、人口減少が進んでおり、介護職員の確保が更に困難になってきています。

今後の老健運営に、さまざまな発想が必要になってくると思われまので、会員の情報収集や意見交換の機会を、可能な限り支援していければと考えております。



幹事
千葉 泰二
特定医療法人社団千寿会 理事長
介護老人保健施設
グリーンコート三愛

機関誌の創刊にあたりご挨拶申し上げます。地域包括ケアシステムが提唱され、我々に課せられた介護と医療のジェネラルワーク。現在では地域住民も含めて相互理解が進み、地域包括ケアチームや地域連絡会など、個々の発想や複数事業関与による取り組みが様々に展開されてきています。それらの情報が本誌で多く取り上げられ、道内各施設の利用者はもちろん職員の皆さんの生活の質があげられるような情報源になるよう努めてまいります。



幹事
長谷川 賢
医療法人社団刀圭会 理事長
介護老人保健施設
アメニティ帯広 他

このたび機関誌を刊行することになりました。役員の一人として、機関誌に寄せる思いを綴ります。家族や地域住民に情報提供を行いつつ、自治体や医療・福祉機関および事業者と連携しながらのケアの提供。集中的な維持期リハビリテーション。基本動作能力の獲得、生活機能向上や状態像に応じたチームケアで在宅復帰を促進すること。通所や訪問リハビリテーションによる介護予防や自立した在宅生活、さらには家族の介護負担の軽減。これらがすべて実現できた暁には、単なる高齢者の収容場所を脱して、入所しても、また住み慣れた家に帰れる在宅生活支援機能を持った施設、あるいは訪問リハの拠点となれるでしょう。

しかし、ここには大切なことが欠けています。大事に扱われないと元気になれないのは、利用者ばかりではありません。情報提供と連携は老健と外部機関との間だけでなく、組織内のネットワークにも不可欠です。このたび発行される機関誌は、職員を含めたステークホルダーのネットワーク強化に役立つものであるべきです。それが会員施設の元気を生み出し、ひいては高齢者の未来を明るくすることになると確信しています。



副会長 橋本 政明
社会医療法人明生会 最高顧問
介護老人保健施設 あるかざる



幹事
藤原 秀俊
医療法人社団秀友会 理事長
介護老人保健施設
愛里苑

愛里苑は1989年開設の北海道で2番目の老人保健施設です。2007年経営困難となった医療法人心友会から秀友会が継承しました。

地域医療構想と地域包括ケアシステムは一体としたもので、一連のものとする必要があります。その中で老人保健施設は超急性期医療から在宅療養へ繋ぐ非常に重要な役割を果たす所です。本機関誌が、施設間の情報の共有化と更なるレベルアップに貢献できれば幸いです。



幹事
蒲池 匡文
医療法人亀田病院 理事長
介護老人保健施設
グランドサン亀田

介護保険制度の先陣として多職種協働を旨に発足した老健の実力は、病院の外来て見て取れます。病気としては軽快しても、虚弱となって自宅に帰れなかった方が表情よく元気そうに回復する姿を見て、「病院にいるより良かったね」と声をかけることもしばしばです。医療・介護は地域で足りないものを補うとき、間違いなく喜ばれる仕事でしょう。時代や地域性で違いはあれど、我々老健の力を多くの方に何度でも味わってもらいましょう。



副会長 谷内 好
社会福祉法人深仁会 理事長
介護老人保健施設
コミュニティホーム白石 他

北海道老人保健施設協議会(道老健協)は2010年の一般社団法人化を経て、今年で27年の足跡を刻んできました。草創期、先人諸先生のためめ結末と、支える事務連諸賢の奮闘で会員老健の発展と軌を一にして道老健協も成長してこれたものと思います。

道老健協は独立した法人としての社会的役割とともに、公益法人全国老人保健施設協会(全老健)の構成員として北海道支部を運営していくという2つの顔を持っています。

全老健にあっては、1年後の同時報酬改定に向け議論がはじまりました。我々支部は地域の現状を訴え、要請の根拠となる各種調査にも積極的に対応して全老健の「力」の源泉にもなっていかなければなりません。

北海道地域医療構想が具体化し、各地域での地域包括ケアシステムの輪郭がみえてくるようになりました。小職の立場で微力ながら今後も取り組んでまいります。

深刻化する高齢社会問題に対し介護業界を取り巻く環境は今後ますます厳しくなることは確実であり、医療と介護の総合力のある介護老人保健施設は、2025年におけた地域包括支援システムの構築を確実に遂行していき中核を担う責務があります。そのためには会員相互の情報共有や連携により迅速な対応が求められ、本機関誌が情報元となり地域に向けた明るい未来及び施設や職員の資質向上づくりに役立てることを祈念申し上げます。



幹事
本村 勝昭
社会福祉法人
旭川福祉事業会
介護老人保健施設
ひだまりの里
施設長

- 名誉会長**

社会医療法人恵和会 理事長
介護老人保健施設アメニティ西岡 他
西澤 寛俊
- 監事**

医療法人社団展望会 理事長
介護老人保健施設ライフほしおき 他
小林 洋文
- 監事**

特定医療法人とこはる 理事長
介護老人保健施設おおぞら
常松 潔
- 事務局長**

医療法人社団 豊生会 事務局長
介護老人保健施設ひまわり
平等 幸雄

第24回北海道老人保健施設大会

「老健のホスピタリティを求めて ～施設から地域へ向けて～」開催

2016年11月4～5日、第24回北海道老人保健施設大会がホテルさっぽろ芸文館(札幌市中央区)で行われました。会場には、105施設から560人超が一堂に集結し、特別講演をはじめ66題にのぼる研修講演・分科会など充実したプログラムを通じて研鑽を図りました。

第24回北海道老人保健施設大会

— プログラム —

1日目

- 開会式
- 研修講演
- 特別講演
- 懇親会
- 基調講演

2日目

- 分科会
- 閉会式

1日目

開会の挨拶



会長 星野豊

老健が多様な役割を担うために活発な議論を!

本大会は、「老健のホスピタリティを求めて～施設から地域へ向けて～」をメインテーマに掲げました。これは、後期高齢者が急増する2025年に向けて地域包括ケアシステムや地域医療構想が推進される状況下で、老健は医療に支えられた介護や認知症ケア、リハビリを提供できるという強みを生かし、改めて地域で受け皿としての責務を担っていかなくてはならないという決意の表れです。そして介護人材が不足するなか、元気高齢者が活躍

できる場としての期待を受け、北海道老健も新たな取り組みを始める段階にあり、より会員の皆様と協働して進めたいという思いを込めました。

老健が地域に根差すためには、積極的に地域に出て、地域との相互理解を図ることが必要です。本大会を通じて有意義な時間を共有して議論を交わし、これからの老健がさまざまな役割を発揮できるよう取り組んでまいりましょう。

特別講演

ホスピタリティ精神を持ち 感動を生む介護を!

社会福祉法人愛川舜寿会ミノワホーム常務理事の馬場拓也氏が、「介護は究極のホスピタリティ産業～介護を提供する場から、感動を生む場へ～」と題した特別講演を行いました。

馬場氏は、2010年に介護業界に転身するまではイタリアの高級ファッションブランド「ジョルジオアルマーニジャパン株式会社」で、トップセールスマンとして活躍していた異色の経歴の持ち主。そこで培ったホスピタリティやサービスに対する考え方を介護業界に置き換え、いかに日々仕事に取り組んでいくべきかを熱く語りました。

後半では自法人の取り組みを紹介。施設の扉を取り払い、地域との交流を建築家や学生と一緒に促進する「距Re:Design Project」をはじめ、家族が普段見ることのできない本人の様子をDVDとして編集し、看取り後に家族に贈呈し

てグリーンケアへとつなげた事例など、既存概念にとられないユニークな試みに、参加者は熱心に耳を傾けていました。



「現場スタッフの方は手をあげてください」と挙手を手うながす馬場氏

Check!

介護の仕事における大事なポイントとは

- サービスとホスピタリティの違いを認識する**
サービスは、万人に共通するマニュアル的な対応となるもの。ホスピタリティは、個々に合わせた対応でマニュアル化は不可能。よって介護は究極のホスピタリティ産業といえる。普段から、こうした考え方の整理をしておくことが、仕事をすすめるうえでのセルフチェックとして有効。
- 介護の本質は“鳥の目”で捉える**
目の前の利用者をどうケアするかといった足元に着目した“虫の目”は必要でありつつも、介護の本質を理解するには物事を俯瞰して見る“鳥の目”を忘れないように!
- +1%の満足が感動を呼ぶ**
介護保険や個人情報保護法などさまざまな制約があっても、リスクから物事を考えるとアイデアは生まれにくい。利用者の想定内でのサービスはただの“満足”にとどまるが、満足を超えて1%でも超えることができれば“感動”になる。自分の初期衝動を大切に!



PROFILE
馬場拓也(はば・たくや)
1976年、神奈川県生まれ。大学卒業後、ファッション業界での活躍を経て、10年、介護業界に転身。13年、発表演題「家族の知らないある日の出来事」が「第1回中村博彦賞」(全国老人福祉施設協議会)を受賞。14年には、全国20法人と共同で任意団体「介護男子スタディーズ」を設立。

基調講演

在宅復帰のフラッグを掲げ 国民に支持される強い老健を目指す

全国老人保健施設協会の本間達也副会長が登壇し、「国民に支持される強い老健施設を目指して～地域包括ケアシステムにおける老健の役割～」をテーマに基調講演を行いました。サービス付き高齢者向け住宅や特別養護老人ホームなどが台頭するなか、いかに老健が存在感を発揮し、生き残っていくか。そのための方策としては、①医療機関からの退院受け皿、②リハビリテーション、③看取り、といった3つの機能強化の必要性をあげました。

本間副会長は、急性期病院(7対1一般病棟入院基本料)の在宅復帰要件として、在宅強化型および在宅復帰・在宅療養支援機能加算算定施設の老健であれば在宅とみなされることに触れ、「組織が一体となってその取得を目指して取り組むべき」と提言しました。

また、医療機関ではカバーしきれない退院後の生活期リハビリを担えるのは、医師を含め多職種がかかわる老健であることを指摘。在宅復帰率を上げるためにも、短期集中リハビリや認知症短期集中リハビリ、そして在宅における個別・訪問・通所リハビリにより、生活を継続できる支援を強める必要があると語りました。

「リハビリテーションマネジメントの強化や、特養と差別化可能なメディカルケアに特化したショートステイの充実など、入所と在宅サービスを含め、常に何らかの形で老健がかかわる“往復型利用”が理想的です」あわせて、このような往復型利用による在宅生活を継続することで、段階的な看取り支援にもつなげることができると示唆しました。

最後に、地域包括ケアシステムを実現するための介護サービスの担い手を増強するには、元気高齢者の活用が鍵になると事例を出しながら提起しました。



本間副会長は福島市で医療法人生愛会理事長・総院長、社会福祉法人生愛福祉事業団理事長を務めている

Check!

地域包括ケアシステムの 拠点として老健が担う

4つの役割

- ◆ リハビリテーションの充実
- ◆ 医療の充実
- ◆ 認知症へのより高度な対応
- ◆ R4システムを基盤としたケアの質の充実

研修講演

在宅復帰・在宅支援に 向けての老健施設の役割

研修講演では会場別に、研修1「介護職によるアプローチ」、研修2「リハ職によるアプローチ」、研修3「組織マネジメント・支援相談員の役割」について発表。各職種の在宅復帰・在宅支援に向けての役割について研修しました。



研修1では各講演の後、北海道老人保健施設協議会事務連藤井徹也副会長を座長にパネルディスカッションを開催。在宅復帰への取り組みがチームに及ぼす影響などが議論されました



研修2では、ADL評価に注力したことで在宅での独居生活が可能になった取り組みや、きめ細かな家族面談で在宅復帰の不安解消につなげたリハ職による事例が報告されました



研修3では、支援相談員が組織マネジメント能力を高めることにより、老健が地域包括ケアシステムの拠点としての役割を発揮するという観点からの発表が行われました

懇親会



乾杯の発声は、北海道看護協会の上田順子会長が務めました。「当協会としては看護職と多職種の連携はもちろん、病院と老健で働く看護職同士の連携を充実させていきたい」



参加者は、豪華なビュッフェ形式の料理を楽しみながら交流していました

2日目

66題の発表が行われた充実の分科会

PICK UP

認知症独居高齢者の在宅復帰をうながすために、タイムスケジュールに即した行動や4点歩行器による歩行といった目標を設定し、多職種でその実現に向けて取り組んだ事例などを発表



在宅復帰・在宅支援

分科会 カテゴリー一覧

- 在宅復帰・在宅支援
- 業務改善
- 食事ケア
- レクリエーション
- 排泄ケア
- 管理運営・リスクマネジメント
- 栄養管理・口腔ケア
- 通所リハ
- 認知症ケア
- 多職種協働・情報共有
- ケア全般
- 通所リハ・身体拘束ゼロ

PICK UP

管理運営・リスクマネジメント
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会
白樺通り地域包括ケア協議会

十勝における生活道路「白樺通り」沿いに位置する4老健を中心に「白樺通り地域包括ケア協議会」を結成。連携とケアの質向上を図っている取り組みなどが報告されました



参加者からは発表に対する質問も積極的に飛び、各分科会で充実した研修が行われました

PICK UP

◆ 食事ケア
全国のご当地グルメの提供とともに、その該当地域の映像もあわせて鑑賞してもらう形で、食べる楽しみを創出するユニークな取り組みなどを紹介

閉会式



メイン会場の閉会式に登壇した谷内好副会長は、「それぞれの老健が一つひとつ研鑽を重ね、地域のなかでお役に立てるような存在になっていただきたい」と挨拶。大会は盛況のうちに幕を閉じました

※地域ごとの加入順で掲載しています

創刊号特別掲載 会員施設一覧

2017年1月1日現在

会員施設 エリアMAP

道北エリア

21施設

道東エリア

31施設

道央エリア

100施設

道南エリア

16施設

道
央

NO.	施設名	郵便番号	住所	電話番号	入所定員	通所定員
1	介護老人保健施設 リラコート愛全	005-0813	札幌市南区川沿13条2丁目4番45号	011-571-7151	100	120
2	介護老人保健施設 コミュニティホーム白石	003-0024	札幌市白石区本郷通3丁目南1番35号	011-864-5321	100	50
3	介護老人保健施設 茨戸アカシアハイツ	002-8042	札幌市北区東茨戸2条3丁目2番5号	011-773-6255	100	60
4	介護老人保健施設 セージュ山の手	063-0004	札幌市西区山の手4条5丁目3-1	011-614-2111	80	50
5	介護老人保健施設 愛の里	006-0001	札幌市手稲区西宮の沢1条4丁目14-5	011-681-6678	100	20
6	介護老人保健施設 アメニティ西岡	062-0034	札幌市豊平区西岡4条4丁目1番5号	011-854-5510	100	35
7	介護老人保健施設 ナーシングヴィラ大谷地	004-0041	札幌市厚別区大谷地東5丁目7番10号	011-892-3737	100	10
8	介護老人保健施設 ほくと	006-0860	札幌市手稲区手稲山口550番2	011-681-5556	60	25
9	厚別老人保健施設 ディ・グリュネン	004-0007	札幌市厚別区厚別町下野幌38-18	011-898-5580	100	60
10	介護老人保健施設 げんきのでる里	004-0839	札幌市清田区真栄434番地6	011-885-5577	100	110
11	介護老人保健施設 アートヒルズ	005-0849	札幌市南区石山837-47	011-592-8500	120	150
12	介護老人保健施設 もえれパークサイド	007-0890	札幌市東区中沼町105番地43	011-791-2311	100	70
13	介護老人保健施設 あつべつ	004-0069	札幌市厚別区厚別町山本750-6	011-896-5020	100	30
14	介護老人保健施設 コスモス	004-0069	札幌市厚別区厚別町山本1063-28	011-895-1110	100	60
15	介護老人保健施設 平和の社	063-0029	札幌市西区平和420番地	011-668-2020	80	40
16	介護老人保健施設 生きがい	003-0832	札幌市白石区北郷2条11丁目3-20	011-871-2001	100	60
17	老人保健施設 けあ・ばんけい	064-0945	札幌市中央区盤渓232-7	011-615-9623	100	60
18	介護老人保健施設 グラネ北の沢	005-0832	札幌市南区北の沢1804-52	011-572-2002	100	120
19	介護老人保健施設 おおぞら	007-0880	札幌市東区丘珠町167-10	011-786-0020	100	70
20	介護老人保健施設 ばだい樹	003-0869	札幌市白石区川下577-9	011-873-2345	100	0
21	老人保健施設 手稲あんじゅ	006-0035	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6-1	011-685-8200	90	32
22	介護老人保健施設 さっぽろ東ナーシング	007-0880	札幌市東区丘珠町291番地3	011-785-8200	100	40
23	老人保健施設 ライフほしおき	006-0851	札幌市手稲区星置1条4丁目2-10	011-694-6668	86	14
24	勤医協老人保健施設 柏ヶ丘	003-0028	札幌市白石区平和通7丁目南5-1	011-865-0010	80	60
25	介護老人保健施設 エル・ウォール平和	063-0022	札幌市西区平和2条11丁目2-5	011-667-8111	100	60
26	介護老人保健施設 札幌北翔館「そとこと」	002-0859	札幌市北区屯田9条3丁目3-2	011-773-7200	100	60
27	介護老人保健施設 セージュ新ことに	001-0915	札幌市北区新琴似町787-2,3	011-768-2800	100	95
28	介護老人保健施設 ひまわり	007-0803	札幌市東区東苗穂3条1丁目2-18	011-781-8800	90	100
29	慈啓会 老人保健施設	064-0941	札幌市中央区旭ヶ丘5丁目6-48	011-520-8085	90	40
30	介護老人保健施設 北野の四季	004-0861	札幌市清田区北野1条2丁目11-50	011-881-2255	85	50
31	介護老人保健施設 徳洲苑なえぼ	065-0007	札幌市東区北7条東18丁目105-23	011-753-0011	85	60
32	老人保健施設 ライフふくまつ	062-0039	札幌市豊平区西岡497-10	011-583-5000	85	0
33	介護老人保健施設 びあケアさくら	063-0011	札幌市西区小別沢97番地	011-668-2777	80	40
34	北海道病院附属介護老人保健施設	062-8618	札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18	011-813-2222	100	60
35	介護老人保健施設 ら・ばーす	002-8052	札幌市北区篠路町上篠路6-286	011-774-1131	80	75
36	介護老人保健施設 豊平北翔館 豊翔の郷	062-0911	札幌市豊平区旭町5丁目5番1号	011-837-7500	80	50
37	介護老人保健施設 フォーシーズン真駒内	005-0016	札幌市南区真駒内南町4丁目3-3	011-588-1200	76	30
38	介護療養型老人保健施設 博友会	063-0032	札幌市西区西野2条7丁目1番1号	011-611-1850	127	0
39	介護療養型老人保健施設 しんえいの社	004-0839	札幌市清田区真栄331番地	011-886-7688	60	0
40	介護老人保健施設 清田北翔館 まいあの里	004-0802	札幌市清田区里塚2条4丁目2番53号	011-885-6540	80	40
41	介護老人保健施設 フォーシーズン山鼻	064-0917	札幌市中央区南17条西9丁目1-13	011-561-1200	80	30
42	介護老人保健施設 福住の丘	062-0021	札幌市豊平区月寒西1条11丁目3番10号	011-857-7800	80	20
43	介護老人保健施設 プラットホーム	002-0872	札幌市北区あいの里2条1丁目	011-776-3037	80	60
44	介護老人保健施設 友愛ナーシングホーム	069-0805	江別市新栄台46番地12	011-382-1110	100	40
45	介護老人保健施設 はるにれ	069-0861	江別市大麻北町607-2	011-386-0550	100	80
46	老健 のっぽろ	069-0822	江別市東野幌396番地32	011-381-1133	100	40
47	介護老人保健施設 クリアコート千歳	066-0032	千歳市北陽4丁目4-12	0123-27-3232	100	40
48	介護老人保健施設 北星館	066-0081	千歳市清流5丁目4-1	0123-40-2525	100	50
49	老人保健施設 アートライフ恵庭	061-1356	恵庭市西島松567番1	0123-37-1511	100	30
50	介護老人保健施設 恵み野ケアサポート	061-1373	恵庭市恵み野西2丁目3番地4	0123-37-5060	100	45
51	介護老人保健施設 エスポワール北広島	061-1264	北広島市輪厚704-16	011-376-3911	100	80
52	介護療養型老人保健施設 えみの里順天	061-1270	北広島市大曲695番地	011-377-8000	90	30
53	介護老人保健施設 オアシス21	061-3207	石狩市花川南7条5丁目3-2	0133-72-0021	100	60
54	介護老人保健施設 愛里苑	061-3775	石狩郡当別町字ヒトエ2200番1	0133-26-2874	100	40
55	介護老人保健施設 ラポール東小樽	047-0152	小樽市新光2丁目29番2号	0134-52-3000	150	20
56	老人保健施設 マイトリーおたる	047-0013	小樽市奥沢1丁目2番2号	0134-21-2555	100	40
57	小樽老人保健施設 はまなす	048-2672	小樽市塩谷2丁目17番25号	0134-28-2600	100	40

※地域ごとの加入順で掲載しています

Table with 7 columns: ID, Facility Name, Postcode, Address, Phone, Inhabitants, Pass Holders. Rows 58-100.

Table with 7 columns: NO., Facility Name, Postcode, Address, Phone, Inhabitants, Pass Holders. Rows 1-14.

道央

道東

Table with 7 columns: ID, Facility Name, Postcode, Address, Phone, Inhabitants, Pass Holders. Rows 15-31.

Table with 7 columns: NO., Facility Name, Postcode, Address, Phone, Inhabitants, Pass Holders. Rows 1-21.

Table with 7 columns: NO., Facility Name, Postcode, Address, Phone, Inhabitants, Pass Holders. Rows 1-16.

道東

道北

道南

「老健ほっかいどう」へ みなさんの声をお寄せください!



「老健ほっかいどう」では、会員の皆様からのお声を募集しています。施設での取り組みをはじめ、地域や利用者・家族の活動紹介をPRすることはもちろん、抱えている課題や記事として取り上げてほしい話題、情報など自由なご意見をメールまたはFAXでお寄せください。誌面・記事企画の参考にさせていただきます。また、誌面で取り上げさせていただく場合は担当者からご連絡させていただきます。

該当する項目に

チェックをお願いいたします

- 施設での取り組み 地域、利用者(家族)の話題 抱えている課題 本誌の感想・要望
 記事企画に関すること その他()

施設名		ご担当者名	
ご連絡先	TEL /	FAX /	E-MAIL /

お送り先

FAX 011-781-8822 メールアドレス info-pop@doroken.jp
 一般社団法人北海道老人保健施設協議会事務局 宛

編集後記

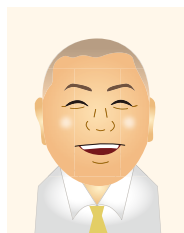
この度、会員の皆さまからのご協力により機関誌「老健ほっかいどう」を発刊することができました。心より感謝申し上げます。これからも「老健ほっかいどう」が会員の皆さまの財産となるよう、有意義な情報提供を心がけて参ります。



「老健ほっかいどう」を今後も会員の皆さまとともに作り上げていくことで、会員間の連携強化に繋がることを祈願しております。

介護老人保健施設 ゆとり
境(事務連・広報担当)

待望の機関誌が発刊になりました。今後は、道内老健の輪がより一層強固なものとなるよう広報活動を展開して行きたいと思っております。皆様からのご意見・感想がございましたら、次号からの励みとして行きたいと思っておりますので、お待ちしております。



また創刊号発刊に際し、ご支援・ご協力いただいた皆様に深く謝意を表します。

介護老人保健施設 グランドサン亀田
吉田(事務連・広報担当)

事務局担当者として機関誌の刊行に携わっています。これからの厳しい時代を乗り越えていくためにも、これまで以上に道内老健が相互に協力していくことがとても大切なことだと感じています。機関誌の創刊を機に、より一層の



相互連携の下、老健パワーを地域に向けて存分に発揮できるよう、事務局として皆様のサポートに尽力したいと思います。今後ともよろしく申し上げます。

介護老人保健施設 ひまわり
村瀬(事務局)